

第 30 回 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 廃炉等技術委員会 議事要旨

日 時 2018 年 9 月 26 日(水) 9:30~12:00

場 所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF) 第二大会議室

1. 委員長の互選

廃炉等技術委員会委員の互選により、委員長に近藤委員が選出された。また、委員長代理に吉川委員が選任された。

2. 戦略プラン 2018 について

NDF 事務局から、戦略プラン 2018 について、以下のとおり説明した。

- 前々回の廃炉等技術委員会では戦略プランの骨子、前回は戦略プランの要旨を議論しそれぞれ取りまとめた。その後、廃炉等技術委員会の委員や、専門的な内容については燃料デブリ取り出し及び廃棄物対策専門委員にもレビューをいただき、福島県をはじめ地元 13 市町村の方々にも地元の目線からで御意見を伺い、本文について取りまとめた。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下のとおり。

- 安全確保の考え方については、原則はリスクを小さくすることであって、形式論ではなく、きちんとした仮定から、さまざまな議論をきちんと積み上げて、社会が納得できるように決めていけば良い。

海外特別委員からの主な意見は以下のとおり。

- 非常に複雑な研究開発のスキームになっている。これは各国でも同じである。他方でさまざまな施策がとられ、このプロセスを合理化していく動きもある。研究開発のニーズの明確な特定、明確な最優先順位付け、実施及び効率の確認を行うという動きをとっていると思うが、この方向性を専門家の間でさらに進めてほしい。NDFが中心となり、全体的な計画の下で研究開発を進めていければと願う。
- 廃棄物の収納・保管に関してです。認可された容器を見付けることはとても困難なことである。とくに新しいものを作る場合、長期のリードタイムがかかることもあり、また規制の許可を得るのにも時間がかかるため、廃炉を進めるうえで非常に注意が必要である。
- 廃棄物の処理処分の検討のプロセスの中で、パブリック・ディスカッション（公開討論の場）を持つ必要があるかと思う。どうやってパブリック・ディスカッションの場を設けるのかということも検討してほしい。

以上の点を踏まえ、本文案の修正等については委員長一任とし、後日公表することとした。

3. 廃炉等積立金の取戻しに関する計画の作成方針等について

NDF 事務局から、廃炉等積立金の取戻しに関する計画（以下「取戻し計画」という。）の作成方針等について説明した。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下のとおり。

- 誰が何を実施して上手くいったのか、又は上手くいかなかったのかという、単純な実行段階の記録を残すことが必要である。福島第一原子力発電所の廃炉の問題は他にないわけだから、この経験が終わった後に外から勉強しようと思っても見えない。同じような問題が起こったときに、誰に聞けば良いのかという情報を大きなプロジェクトが終わったときに残すというのが、世界的に常識になりつつあると思う。例えば、リワード及びペナルティーというのは、現場のイメージを可視化していると思うが、これが欠けているのではないか。私たちは責任を負っているので、ドキュメンテーションをきちんと作るべき。
- 東京電力は3号機の大きな問題を抱えているところ、今後、品質管理は非常に大切だと思うが、日本では順調に品質管理ができて当たり前と往々にして考えてしまう。今回のことを悪い例と見ないで、よく分析して、今後どのように品質管理があるべきか、総合的に品質管理の体制をもう一度考えられないか。

4. 廃炉への取組状況について

東京電力から、福島第一原子力発電所の廃炉への取組状況について、汚染水対策の状況、使用済燃料プールからの燃料取り出しに向けた準備状況、燃料デブリ取り出し準備に向けた準備状況及び廃棄物対策等の進捗報告があった。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下のとおり。

- 3号機の使用済燃料プールのクレーンの定格荷重以上の荷重を吊っていたという問題は、品質管理の問題というよりは作業管理の問題だと思う。非常に原始的な話である。
- 同問題について、しっかりしてほしいと思わざるを得ない。絶えず一丁目一番地からチェックするというのを忘れないでやっていただきたい。

5. その他

NDF 事務局から、以下の事項について主に説明があった。

- NDF 廃炉支援部門の最近の活動実績
- 廃炉等技術委員会等の主要スケジュール

以 上